第10号　本小の教育「授業研修会」　5年理科

○授業スタンダード期　「授業の型づくり期」

今回の授業は、仲村憲太先生による初任者向けの『 師範授業 』を実施した。５年生の理科で単元名は、「ヒトの発生」の導入部分である。授業プランとしては、ICT機器であるタブレット（ソフトは、ロイロノート）を活用して、自分達の班毎に役割分担をして調べ、まとめをして、プレゼンテーションとして作成し発表することを目標にしている。

サンプルとして既習事項の「めだか」を用いてのプレゼン発表に、子供達の「やる気」にスイッチが入った。子供達に「やる気モード」のスイッチを入れるのが教師の役割です。

■ 5年3組　（理科）「仲 村　憲 太」先生　師範授業　実施

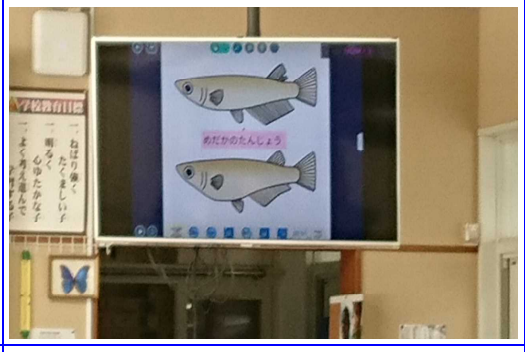
【児童の手（学習規律）】

[上図]「班毎に話し合い」を進める！！
○ 班（小集団）毎に向かい合って、話し合いと役割分担の取り決め。
スムーズであった。訓練されている

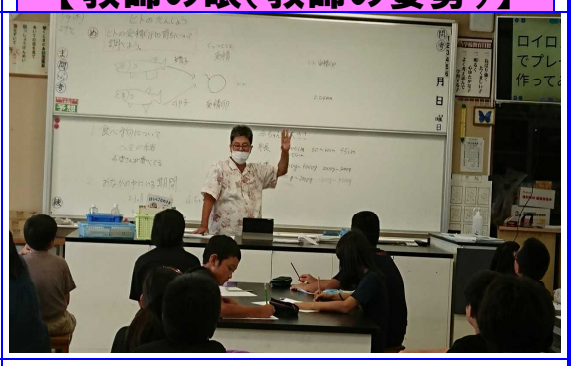
[中図]「教師の話を聴く姿勢」Ｇood ！
○「基本聴型」が出来ている。おへそを教師側へ向けて、座り直している。
普段からの「躾」なのか。とても良

[下図]「ＴＶ画像を見る姿勢」Ｇood ！
○ 教師は手元のタブレットを操作。
子供達は、全員がＴＶ画像へ視線を投げ興味津々で見ている。

【教室の色（支持的風土）】



【教師の眼（教師の姿勢）】



【支持的風土づくり】
○ 教室掲示で「学習の進め方」をある。
○ ヒトの体や発生などの標本等がある。
○ 水槽があり、貝や淡水魚を飼育してる
○ 班（グループ）は、意図的に編制する
○「基本話型」「基本聴型」が徹底されて
○ 安心して発表が出来るクラス雰囲気が
○ 教師のサンプル発表にも自然と拍手が
○ 男女間の中も良く、班が協力的である
○ 卵子や精子、受精卵にも抵抗なく入れ

【授業の様子】から・・・
○ 子供達は、出産時の胎児の体重などや、へその緒のことなど良く知っている。
お母さんが教えてくれたそうだ。
この様な親子の会話があることは、「愛され、はぐくまれてきた」事を感じさせてくれる。
この愛情の基盤の上に立って、これからの「ヒトの発生」について「学び」を深められたらいいだろうなとつくづく感じた。「生命尊重」にも繋げたい。

【感想】　「（初任者への）師範授業・理科」としての「雑感」を述べたいと思います。 ヨロシク ！！

○ 先ず、初任者は「私達の為に授業をうってくださってる」と、感謝の気持ちで参観して欲しい。！
○ 子供達との「ラポートづくり」「人間関係づくり」が、出来ていると感じられた。授業の基盤である。
○ ＩＣＴ機器（タブレット）等も頻繁に活用している様子が見受けられた。これからの授業に必要だ。
○ めだかの絵図、とても上手とは言い難いが、子供達は、特徴を捉え、めだかの雄雌を明確に答えた。
○ 学級の支持的風土の醸成が、専科の教室までも繋がっている。学年・学級によって「色」が変わる？
○ 自己肯定感を高め、班毎に存在感があり、「対話的な深い学び」に発展していけそうな予感を感じた。

校長より